

別海町郷土資料館だより

No.75・2005・10

「伊能大図」を使った 総合的学習～豊原小学校



9月6日、豊原小学校において「伊能大図」のレプリカ（複製）を使った総合的学習を行いました。これは、伊能忠敬によって測量された日本全土の地図のうち一枚で、現在の本別海・走古丹・風蓮湖付近が当時の地名とともに描かれており、今年6月に国土地理院より別海町に寄贈されました。

生徒のみなさんからは、「あきらめないで最後まで歩くのをつづけたことにまずビックリしました」、「200年前には、もうほとんどせいかくな地図が出来ていたのには、びっくりしました」といった感想が出されました。

この「伊能大図」のレプリカは、9月21日まで豊原小学校に貸し出され、同校内に展示されました。現在は加賀家文書館で常設展示していますので、ご来館の折には是非ご覧下さい。



「伊能大図 No.6 根室 西別 落石」(部分)

野付半島遺跡で発掘 体験学習～上春別中学校



8月26日、上春別中学校1年生のみなさんが野付半島遺跡群発掘調査現場を見学し、発掘の体験学習をしてもらいました。「発掘という一生に一度しか出来ないかもしれない貴重な体験ができて、うれしく思います」、「土を何センチか掘っただけでタイムスリップしたようでした。鉄クギを見つけたことは、たぶん一生の思い出になると思います」といった感想が資料館に寄せられました。

同遺跡の発掘作業は今月一杯まで実施する予定になっています。

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ
10月(■は休館日)

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

「加賀家文書」の調査研究から～その19

「根室のアイヌの人たちが見た箱館の街」 （「御目見付添日記」から）

調査員 戸田 峯雄

子モロ・アツケシ・クスリのアイヌたちが箱館へ御目見に上ったのが安政6（1859）年であり、同年11月には、子モロ場所は、会津と仙台藩に分割され、翌年の万延元年に両藩へ引き渡された。その後、御奉行様にお会いする「御目見」は根室地方からは行なわれなかったようだ。箱館へ近づくにしたがって仁助の病気もよくなったらしく、共に難儀な旅をしてきた仲間には喜びが大きかったようだ。

4月10日—午後2時頃箱館着、休むように言われる。

同16日—街を見聞しておき、御目見が終り次第、早々に場所へ帰るよう通知されたので、弁天岬御台場・山背泊の砲台を見物（他に三か所の砲台があった）し、番人宿へ寄って帰宅した。夜になって、陣平（根室49歳）・長助（ベツカイ25歳）を連れて夜店へ。伝蔵をはじめとして二人のアイヌは大勢の人に驚く（安政4年の箱館の戸数は二千、人口は一万余を超え、年々増加していった）。餅とりんごを手土産に買う。

同17日—早朝から、お目見の動作の練習、仁助が代表して和語でお礼を申し上げることになる。かっこう時計（右下図参照）、ロシア・アメリカ・イギリス・オランダ・広東五か国王の服、各番家での絵図、陣太刀、毛織の敷物などを見る。この後はお馳走。料理はカレイの刺身・煮付・かまぼこ・昆布巻・うなぎの串焼き・巻きスルメ・みかん・割りりんご・干したらぬべりあえ・ソイの薄塩煮・タコ大根酢あえ・豆腐・魚・海苔で、食べたいだけ食べ、お礼を申し上げて帰る。午後は寺や神社を参詣し、帰りに、寺の門の外で手招きしているアメリカ人に会う。

「うん、その髭がよい、よい」と言いながら、仁助・陣平の髭を撫でた。「ソコドコノ男だ」と聞かれ、仁助は「根室だ」と答える。その時アメリカ人が手真似で「フーフーというオキナ魚（鯨のこと）あるか」と聞く。仁助は「イシヤマイシヤマ」と答えた。夜になって、重助（薫別49歳）作蔵（植別25歳）を連れて山の上を見物し、そばを馳走して帰る。

18日—お店から人形芝居に招待される。夜は、仁助・重助・作蔵を連れて山の上を見物した。

19日—八幡宮（箱館奉行所の祈願所）に参詣、金百疋を奉納したところお神楽を舞ってくれたので、アイヌたちはとても喜んだ。南部・津軽・秋田様の御陣屋を見物し、道茶屋でうどん・餅を馳走する。

20日—御奉行様が二本柱の船（箱館丸のこと。安政4年進水）で青森から渡海、明日の午前9時頃に箱館へご上陸とのお触れが市中に廻った。

21日—御奉行様乗船のお船が来航するので、アイヌたちは慎んで入るに言われる。

22日—来る25日が御目見の日に定められたことをお通辞様から仰せ付けられる。

23日—築島で二本柱の船を造っているのを見学（亀田丸のこと。安政6年10月進水し、江戸へは勿論のこと、千島、樺太、長崎、黒竜江まで航行し、交易を行なった）。

24日—衣服を揃え、額を剃り、身体を洗い、爪切り、身を清潔にした。

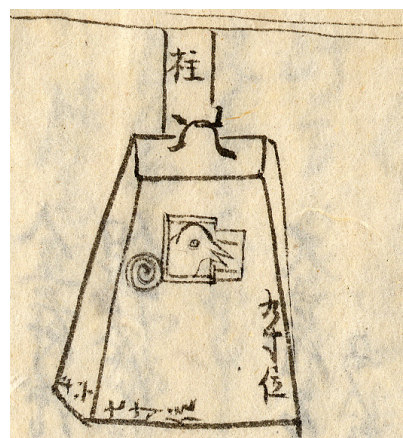
25日—当日、役アイヌ・請負人代・通訳は麻の上下で登場。午前11時頃に御目見、仁助がお礼を申し述べるようになっていたが、和語で言えず、アイヌ語でお答えしたと、お通辞様が笑いながら教えてくれた。戴いた品物—麻上下、脇差、箱入盃、縞木綿、葉たばこ、山刀。御料理、酒肴の御馳走、挨拶廻り、お礼を述べて帰宅、安心する。

26日—麻の上下を着て挨拶廻り、梯本様・松岡様、河津様（組頭）のお屋敷でお酒肴などのご馳走、その後アイヌ一同は踊りをご覧にいらした。松前様のお屋敷、仙台様のお屋敷では酒肴のご馳走の後、一同は「立ち踊り」を披露した。お店や他のお役々様方から種々の品物を戴く。

27日—粹な建物で昼飯、茶屋のもてなし、花魁9人、芸者17、8人、酒、肴。午後4時頃に根室組は早々と逃げ帰りました。

28日—お通辞様、お店へお礼に参り、出帆。

5月13日—根室へ無事に着き、安心する。



伝蔵画「時がね」『安政六未年 土人御目付添
并喜多野様井上様竹内様御取扱日記』（加賀家
文書館蔵）より。「箱の中からカッコウカッコ
ウと目を動かしながら高々と啼く声は本当の
鳥かと思わせるほど。八回位で止まると首が
中に入り、直ちに戸が閉まる」と伝蔵は表現
しています。

別海町郷土資料館だより No.75

発行日 平成17年10月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 北海道指定文化財「奥行臼駅通」周辺がロケ地となったNHKドラマ「ハルとナツ」が10月2日から放送されます。当館の所蔵品も「脇役」として出演する予定ですので、今から放送が楽しみです。▲8月27日に予定していた発掘現場見学会は、残念ながら雨天のため中止となりました。（戸田博史）